

グラデュエーション・ポリシー(育成を目指す資質・能力に関する方針)		カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)	
1 自ら学び、考え、行動する力を育成します。	4 国内外の様々な分野で、リーダーやフォロワーとして活躍する力を育成します。	1 中等教育学校生として必要な学力及び幅広い教養を養います。	4 他者と協力し、世の中に貢献する力を養います。
2 大学等でより深く学ぶための幅広い教養を育成します。		2 よりよく生きるための力を養います。	
3 自らの将来を主体的にデザインできるグローバルな視点をもった豊かな人間性を育成します。		3 グローバル社会で活躍する力の育成を図ります。	

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	A	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、73%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、23%が「どちらとも言えない」、2%が「あまり成長していない」「成長していない」という否定的な評価をしている。	学習時間の増加と質の向上を図り、自ら学び、考え、行動できる力を育成する。また探究学習において課題解決力・表現力を高めるとともに、地域との連携を促進する。
Ⅰ 生徒一人ひとりの進路希望を実現します。	(1) 大学の合格率	国公立大学及び難関私立大学の進学率70%以上を目指します。 A: 100~70%、B: 70~60%、C: 60~55%、 D: 55~50%、E: 50%未満	B	2/13時点で国公立大学の合格者は学校推薦型・総合選抜型合わせて26名である。今後一般入試の結果を待ちたい。	入試方式が一段と多様化する中、生徒の進路実現のための適切な受験方法の提示と受験のための支援を工夫していきたい。
	(2) 難関国公立大学の合格率	東京大学・京都大学等の難関国公立大学及び医学部医学科の合格率15%以上を目指します。 A: 15%以上、B: 14~10%、C: 9~7%、 D: 6~5%、E: 5%未満	B	2/13時点での合格者は、大阪大学1名・九州大学3名・愛媛大学医学部医学科1名・高知大学医学部医学科1名である。今後一般入試の後にさらなる分析を予定している。	中等教育学校の利点を生かし、早い段階から高い目標を持ち、その実現に向けてしっかり学力を向上させようとする意欲を高めていきたい。合格した先輩からの体験談や、大学訪問研修での案内などをさらに充実させていく。
	(3) 進路意識の向上	「進路意識が向上したか」という生徒・保護者アンケートにおいて肯定的な評価が100%になることを目指します。 A: 100~80%、B: 79~70%、C: 69~60%、 D: 59~50%、E: 50%未満	生徒B 保護者C	生徒の77%が肯定的な評価をしている。 保護者の68%が肯定的な評価をしている。	6年間を見通したキャリア教育の更なる充実を目指し、大学訪問研修や出張講義などの機会を改善していきたい。自主的に進路を意識した学習に取り組む態度の育成を図りたい。
Ⅱ 6年間を見通したキャリア教育により	(1) 質の高い授業の実践	「質の高い授業が提供されているか」という生徒・保護者アンケートで肯定的な評価が100%になることを目指します。 A: 100~80%、B: 79~70%、C: 69~60%、 D: 59~50%、E: 50%未満	生徒B 保護者B	生徒の77.4%が肯定的な評価をしている。 保護者の79.8%が肯定的な評価をしている。	ICT機器や各種学習系ソフトを活用した授業手法に関する研究と実践をさらに深めるとともに、学習の効率化を図り、自学自習の習慣を定着させる。また、新コース設立に向けて、教育効果の高まる授業の構築を目指したい。
	(2) 生徒のスキルアップを課題研究	「質の高い課題研究活動が行われているか」という生徒・保護者アンケートで、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A: 100~80%、B: 79~70%、C: 69~60%、 D: 59~50%、E: 50%未満	生徒B 保護者D	生徒の73.0%が肯定的な評価をしている。 保護者の59.0%が肯定的な評価をしている。	「総合的な探究(学習)の時間」のカリキュラムを系統的に整理し、探究活動の更なる充実を図ることで、課題解決能力を向上させていきたい。生徒と保護者の評価に乖離が見られることから、成果を保護者や地域へより積極的に発信していきたい。
	(3) 実用英語技能検定(英検)の取組	英検取得の目標を設定し推進します。 ① 前期課程終了時で、3級取得100% A: 100~95%、B: 94~90%、C: 89~80%、 D: 79~70%、E: 70%未満	B	前期課程終了時点で、3級取得者(一次合格者3年生対象)は91.9%となった。	①については昨年度より13ポイント増加となった。スピーキング活動も大切だが、英検取得では、1次試験で求められるリーディング、リスニング、ライティングの活動を徹底して行い、基礎学力の定着を図る必要がある。
		② 準2級取得75%以上 A: 75%以上、B: 74~70%、C: 69~60%、 D: 59~50%、E: 50%未満	B	準2級取得者(一次合格者5年生対象)74.1%となった。	準2級以上の取得率については、②は昨年度よりも6ポイント、③は4ポイント減少した。後期課程では、2次試験の対策ともなるスピーキング活動を今後も充実させていきたい。
		③ 2~1級取得40%以上 A: 40%以上、B: 39~35%、C: 34~30%、 D: 29~25%、E: 25%未満	A	2~1級取得者(一次合格者5年生対象)43.2%となった。	

※ 評価は5段階(A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった)とする。

(様式 1)

令和 7 年度 自 己 評 価 表 (2 枚目)

愛媛県立松山西中等教育学校

46

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
Ⅲ 多 間 く 性 の 活 動 や 社 会 的 性 を 育 提 供 し、 豊 か な 人	(1) 学校行事の満足度	「学校行事に対して満足しているか」というアンケートに対して、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A：100～90%、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満	生徒 A	生徒の90%が肯定的な評価をしている。	今年度は特に熱中症対策に配慮した企画・運営を進めた。次年度もさらに安心・安全な学校行事の運営になるよう工夫したい。また、生徒会執行部と連携を深め、生徒の自主的・自発的活動をようサポートしていく。
			保護者 A	保護者の91%が肯定的な評価をしている。	
	(2) 部活動の満足度	「部活動に対して満足しているか」というアンケートに対して、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A：100～90%、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満	生徒 C	生徒の78%が肯定的な評価をしている。	個人競技においては実績を上げられている。満足度を向上させるためにも「文武両道」の機運を盛り上げ、あいさつ、時間遵守など基本的なことを身に付けさせるとともに生徒のモチベーションを向上させる方策を工夫していく。
			保護者 B	保護者の82%が肯定的な評価をしている。	
	(3) 図書館活動の充実	図書館の年間貸出冊数を一人当たり、前期課程12冊以上、後期課程7冊以上とする。 前期 A：12冊以上、B：11～10冊、C：9～8冊、 D：7～6冊、E：5冊以下 後期 A：7冊以上、B：6冊、C：5冊、 D：4冊、E：3冊以下	C	1月30日現在 前期 3973冊 1人当たり8.3冊 後期 1574冊 1人当たり3.5冊 計 5547冊 平均 6.0冊	貸出冊数は微増ではあるが、入学期によって大きな差がある。(21期、23期は多) 21期(現3年)は、図書委員も積極的に活動しているので、この期にけん引してもらい活動を工夫していきたい。
			D		
Ⅳ 己 管 理 本 で き る 生 活 生 徒 習 慣 を 育 を て 確 立 す、 自	(1) 挨拶と清楚な身だしなみの習慣化	「挨拶や清楚な身だしなみが習慣化しているか」というアンケートに対して、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A：100～90%、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満	生徒 B	生徒の87.0%が肯定的な評価をしている。	良好な状態が続いているが生徒の評価がBとなり、少し評価を下げている。引き続き自らあいさつが出来る生徒の育成を目指して指導を充実させていきたい。また、校外においても良好な態度が取れるよう細やかな指導を行いたい。
			保護者 A	保護者の91.0%が肯定的な評価をしている。	
	(2) 社会規範の遵守	「社会のルールをしっかりと守っているか」というアンケートに対して、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A：100～90%、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満	生徒 A	生徒の92.0%が肯定的な評価をしている。	良好な状態が続いており、高評価も得ている分野である。引き続き、指導を行っていききたい。特に、交通安全については、道交法改正により自転車の交通反則制度が導入されるので、指導を徹底していききたい。
			保護者 A	保護者の90.0%が肯定的な評価をしている。	
	(3) 温かい思いやりの心	「他者に対して思いやりと持って接しているか」というアンケートに対して、肯定的な評価が100%になることを目指します。 A：100～90%、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満	生徒 B	生徒の88.0%が肯定的な評価をしている。	良好な評価を得ているが、よりよい人間関係を築くことができる力と態度を育てることに努めていきたい。そのために、生徒一人一人を見守りながら、必要な指導やアドバイスを適切に行っていききたい。
			保護者 B	保護者の84.0%が肯定的な評価をしている。	
Ⅴ 改 業 善 務	職場環境満足度	働きやすい職場環境に向けた改善が進んでいると感じる教職員が100%になることを目指す。 A：100～90%、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満	C	教職員の70%が肯定的な評価をしている。また「どちらともいえない」の回答が15%となっている。	昨年度に比べ、肯定的回答が19ポイント上昇した。教職員の意見を取り入れながら、今後さらなる職場環境の改善に取り組みたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。